

PC 300PL (Type 6862/6892)

SA88-6055-00

初期導入済ソフトウェアについて
(Windows 95 モデル)





PC 300PL (Type 6862/6892)

SA88-6055-00

初期導入済ソフトウェアについて
(Windows 95 モデル)

— お願い —

本書の情報および、本書がサポートする製品をご使用になる前に、必ず47ページの付録A、『ライセンス情報』および51ページの付録B、『特記事項および商標』をお読みください。

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミング、およびサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、IBMがこのようなIBM製品、プログラミング、およびサービスを、必ずしも日本で発表する意図であることを示すものではありません。

原典： 06J0850
IBM Personal Computer
About Your Software
Windows 95, Applications,
and Support Software

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1999.3

©Copyright International Business Machines Corporation 1999. All rights reserved.

Translation: ©Copyright IBM Japan 1999

本書について	v
第1章 ソフトウェアの概説	1
導入済みソフトウェア	1
すぐに導入できるソフトウェア	3
第2章 始動	5
本製品の初めての始動	5
始動する前に必要なこと	5
「Windows 95 セットアップ」プログラムの実行	6
IBM ウェルカム・センターの使用方法	7
アプリケーション導入プログラムの使用方法	8
オンライン・ブックを見る	9
AntiVirus、ConfigSafe、IBM System Management Tools、および その他のプログラムの使用法	11
Norton AntiVirus for IBM	12
ConfigSafe	13
IBM System Management Tools	15
本製品の終了方法	19
第3章 他のオペレーティング・システムの導入	21
第4章 Windows 95 再導入時の詳細手順	23
A. Windows 95 のインストール	23
B. キーボードのプロパティ	28
C. USB サポートドライバのインストール	29
D. Intel 82371xB INF ファイルの更新	29
E. IBM 100/10 EtherJet PCI アダプター・ドライバの導入	31
F. ビデオのドライバの導入	33
G. Cirrus Logic CrystalClear Audio ドライバの導入	34
H. Logitech ScrollPoint Mouse のドライバの導入	36
I. IBM 3 モード FDD デバイス・ドライバの導入	36
J. MS - IME97 の導入	38
K. 同梱アプリケーションのインストール	38
第5章 サポート CD の使用方法	41

CD の機能	41
CD の始動	42
第6章 診断プログラムの使用方法	45
Enhanced Diagnostics	45
付録A. ライセンス情報	47
プログラム名	47
追加条件	47
プログラム・サービス	48
保証	48
その他	48
その他の追加条件	48
付録B. 特記事項および商標	51
特記事項	51
商標	51

本書では、ユーザーのコンピューター資料の情報を補足します。今後参照するときのために、本書は他のコンピューター資料と一緒に保管しておいてください。

本書には、導入済みソフトウェアおよび本製品に付属しているその他のソフトウェアについての一般情報が記載されています。

本書は次のように編成されています。

- 1ページの第1章、『ソフトウェアの概説』には、本製品に付属のソフトウェアについての概説が記載されています。
- 5ページの第2章、『始動』には、コンピューターを使用して操作を開始し、ソフトウェア機能の一部を理解する上で役立つ情報が記載されています。
- 21ページの第3章、『他のオペレーティング・システムの導入』には、他のオペレーティング・システムやサポート・ソフトウェアの導入についての情報が記載されています。
- 23ページの第4章、『Windows 95 再導入時の詳細手順』には、回復のための Windows 95 の再導入についての情報が記載されています。
- 41ページの第5章、『サポート CD の使用方法』には、サポート CD で提供されるソフトウェアの導入または再導入についての情報が記載されています。
- 45ページの第6章、『診断プログラムの使用方法』には、本製品に付属の診断プログラム IBM Enhanced Diagnostic についての情報が記載されています。
- 47ページの付録A、『ライセンス情報』には、ユーザーのソフトウェア・ライセンスについての情報が記載されています。
- 51ページの付録B、『特記事項および商標』には、法律に関する特記事項と商標についての情報が記載されています。

本製品には、Microsoft Windows 95¹、アプリケーション・プログラム、診断ツール、デバイス・ドライバーなど、さまざまなソフトウェアが付属しています。これらのソフトウェアには、初期導入されているものと、導入可能なものがあります。これらのソフトウェアは、本製品に付属の「IBM プログラムのご使用条件」および本書の付録A に記載の「ライセンス情報」によって、ライセンスを受けています。

導入済みソフトウェア

Windows 95 以外に、下記のソフトウェアが初期導入されています。

- 出荷時導入済みハードウェア用のデバイス・ドライバー
- IBM ウェルカム・センターでは、IBM によって提供されるソフトウェアの導入、日付および時刻の設定、オンライン・ブックの表示、サポート CD の起動、および IBM 製品ならびに技術サポート情報の入手を行うことができます。

導入済みソフトウェアについての情報は、5ページの第2章、『始動』に記載されています。

重要:

1. 導入済みソフトウェアのバックアップ・ディスクは、本製品には付属していません。ただし、サポート CD には IBM 導入済みプログラムとデバイス・ドライバーのほとんどが入っています。

また、Microsoft Windows 95 オペレーティング・システム (Microsoft 社提供のもので、IBM による修正はありません) は、バックアップのために別の CD で提供されます。この CD には、コンピューターに初期導入されている他のソフトウェアは入っていません。オペレーティング・システムを再導入する必要がある場合は、*Microsoft Windows 95 CD* (および *CD-ROM セットアップ起動ディスク*) をサポート CD とともに使用してください。(Windows 95 オペレーティング・システムや、事前に導入されたソフトウェアのディスクは、IBM から入手することはできません。) Windows 95 の再導入に関し

¹ The Microsoft Certificate of Authenticity は、本製品上の Windows 95 ソフトウェアが、Microsoft 社から合法的にライセンスを受けていることを保証するものです。

ては、23ページの第4章、『Windows 95 再導入時の詳細手順』を参照してください。

2. ユーザーのハード・ディスクは、複数の論理区画 (FAT) に区分されています。C ドライブには、Windows 95 およびその他の事前導入済みソフトウェアが入っています。他の区画はフォーマット済みですが、ファイルは入っていません。
3. できるだけ早く、以下のディスクットを作成してください。
 - a. *IBM Enhanced Diagnostic* ディスクット。この起動可能なディスクットを使用すれば、コンピューターに関する問題を特定できます。(ディスクットの作成手順については、45ページの第6章、『診断プログラムの使用方法』を参照してください。)
 - b. 1 (1ページ) に述べた *CD-ROM セットアップ起動ディスク* のバックアップ・コピー。Windows 95 を再導入する必要がある場合は、バックアップ・コピーを使用します。条件によっては、導入処理中に *CD-ROM セットアップ起動ディスク* のデータが破壊され、ディスクットが使用できなくなることがあります。

すぐに導入できるソフトウェア

すぐに導入できるソフトウェアが、サポート CD とハード・ディスクで提供されています。この CD とハード・ディスクには、IBM によって事前に導入されているプログラムおよびデバイス・ドライバの他に、追加ソフトウェアも含まれています。必要に応じて、どのプログラムを導入するかを決めてください。ここでは、CD に含まれている追加ソフトウェアのいくつかについて説明します。注 1 は、ハード・ディスクにある導入可能ソフトウェアのリストです。

注:

1. **Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe および IBM System Management Tools** の各導入可能ソフトウェアは、ハード・ディスクとサポート CD にあります。最初の 3 つの製品のハード・ディスクからの導入手順については 8 ページの『アプリケーション導入プログラムの使用方法』を、製品の説明については 11 ページの『AntiVirus、ConfigSafe、IBM System Management Tools、およびその他のプログラムの使用方法』を参照してください。Enhanced Diagnostic ディスケットの作成と始動の手順については、45 ページの第 6 章、『診断プログラムの使用方法』を参照してください。
2. Microsoft Internet Explorer 4.0x は、導入可能な状態でハード・ディスク上にあります。ユーザーの Windows 95 オペレーティング・システムには Microsoft Internet Explorer 3.02 が標準装備されていますが、デスクトップ上には **IE4** セットアップ アイコンも提供されており、ユーザーは希望によりこのアップデート版を容易にインストールすることができます。この製品に関する説明、およびデスクトップからの導入方法については、11 ページを参照してください。

CoSession

IBM 技術員または組織内の管理者がリモート側からコンピューターの問題の診断および修正を行うことを可能とする通信ツール。「リモート・コントロール機能」を提供するソフトウェアです。

IBM Global Network ダイアラー

このソフトウェアを使用すれば、IBM Global Network を通じてワールド・ワイド・ウェブに接続できます。

IBM Netfinity
サービス・プログラム

本製品のハードウェアおよびソフトウェアに関する詳細な情報の表示、DMI 情報のブラウズ、さまざまなシステム資源のモニター、および資産機密保護の管理を行うためのソフトウェアです。本製品が、Netfinity Manager の導入されているネットワークに接続されている場合には、Netfinity Manager は資産管理のために情報を収集し、本製品の操作をモニターすることができます。

本章には、本製品を始動する上で役立つ情報が記載されています。ここでは、次のことを説明します。

- 最初に本製品を始動する前に何が必要で、始動の後に何が起こるか
- 以下の内容について
 - IBM ウェルカム・センター (Windows 95 デスクトップ上の **IBM** ウェルカム センター アイコン) からの情報へのアクセスおよび操作の実行方法。
 - Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、および IBM System Management Tools の導入およびアクセス方法。
 - オンライン・ブックの表示方法。
 - 本製品を安全に終了する方法。

本製品の初めての始動

初めて Windows 95 にアクセスする前に、Windows 95 のセットアップ手順を終えておく必要があります。

始動する前に必要なこと

Windows 95 のセットアップ手順を始める前に、次のものを用意する必要があります。

- 本章より詳しい情報が必要な場合には、本製品に付属の Windows 95 の説明書。
- Microsoft Certificate of Authenticity (Windows 95 の説明書の表紙に添付されています) のプロダクト ID 番号。
- ネットワーク管理者からのネットワーク情報 (該当する場合)。
- プリンターを本製品に直接接続する場合には、プリンターのモデルおよびプリンターが使用するポート。

「Windows 95 セットアップ」プログラムの実行

「セットアップ」プログラムをまだ実行していない場合には、本製品の始動時に実行されます。このプログラムは、必要に応じて、情報の選択や入力を求めるプロンプトを表示します。下記の説明よりも詳細な情報が必要な場合には、Windows 95 の説明書を参照してください。

注:

1. セットアップ手順の中で、Windows 95 のライセンス条項を受諾することを示すために、プロンプトに対して、Certificate of Authenticity のプロダクト ID 番号を入力する必要があります。Certificate of Authenticity は、Windows 95 の説明書の表紙に添付されています。
2. セットアップ手順を完了して、システムを再始動すると、Windows 95 のデスクトップが表示され、「Windows 95 へようこそ」の画面が開きます。「Windows 95 へようこそ」ウィンドウからは、以下の選択ができます。
 - 簡単な Windows 95 のチュートリアルでのプレビュー。
 - このリリースの Windows 95 での変更点の表示。
 - オペレーティング・システムの使用についての情報の入手。
 - Microsoft 社への Windows 95 ソフトウェアの登録（モデムが導入済みである場合）。
3. ご使用のハード・ディスクは、複数の論理区画 (FAT) に区分されています。C ドライブには、Windows 95 およびその他の事前導入済みソフトウェアが入っています。他の区画はフォーマット済みですが、ファイルは入っていません。
4. できるだけ早く、3 (2ページ) で説明されている *IBM Enhanced Diagnostic* ディスケットとバックアップ CD-ROM セットアップ起動ディスクを作成してください。

IBM ウェルカム・センターの使用法

IBM ウェルカム・センターは、以下のことを行うための中心となる場所です。

- そのまま導入できる形でハード・ディスク上に提供されている次のソフトウェアの導入。
 - Norton AntiVirus for IBM
 - ConfigSafe
 - IBM System Management Tools
- 以下のようなセットアップ作業の実行
 - 時刻および日付の設定
 - 使用環境を快適にするための情報の表示
- 以下のようなオンライン・ブックの表示
 - *IBM Personal Computer 解説書*
 - *Netfinity ユーザーズ・ガイド*
- サポート CD を始動し、追加ソフトウェア(3ページの『すぐに導入できるソフトウェア』にリストされているものなど)を導入する

IBM ウェルカム・センターを使用するには、次の手順を実行します。

1. 「Windows 95 へようこそ」の画面が開いている場合は、閉じます。
2. **IBM ウェルカム センターアイコン**をダブルクリックします。IBM ウェルカム・センターの画面が表示されます。

3. IBM ウェルカム・センターを使用して操作を実行したり情報を入力したりするには、一般に次の手順を実行します。

a. メインウィンドウの左側にリストされている、以下のカテゴリのいずれかをクリックします。

ようこそ
始めに
オンライン・ライブラリー
システムのカスタマイズ
IBM サービスのご案内

メインウィンドウに、カテゴリごとの情報が表示されます。

b. メインウィンドウで、選択可能なトピックまでスクロールしてクリックします。(選択可能なトピックは強調表示され、下線が引かれています。) 必要に応じ、画面に表示された指示に従います。

注:

1. 本章には、IBM ウェルカム・センターからの操作の実行についての追加情報があります。
2. IBM ウェルカム・センターの上部にある Microsoft Internet Explorer ツールバーの使用方法については、Windows 95 の説明書またはオンライン・ヘルプを参照してください。

アプリケーション導入プログラムの使用方法

ハード・ディスクに導入済みのアプリケーション導入プログラムを使用して、以下のことを実行できます。

- Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、および IBM System Management Tools を導入する
- ハード・ディスクからアプリケーション導入プログラムを削除する
- Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、IBM System Management Tools に関する情報を表示する

注: アプリケーション導入プログラムは、サポート CD 上で使用することもできます。サポート CD の使用方法については、第5章を参照してください。

導入済みのアプリケーション導入プログラムを使用するには、次の手順を実行します。

1. 「Windows 95 へようこそ」の画面が開いている場合は、閉じます。
2. **IBM** ウェルカム センターアイコンをダブルクリックします。
3. IBM ウェルカム・センターのウィンドウで、始めにをクリックします。関連した情報が表示されます。
4. 「アプリケーションの導入」セクションのアプリケーション導入プログラムの起動までスクロールしてクリックします。
5. サポート・ユーティリティーのメニューが表示されたら、以下のうち該当するボタンをクリックします。
 - a. アプリケーションの導入は、Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、IBM System Management Tools を導入します。
最初の 3 つのアプリケーションの詳細については、11ページの『AntiVirus、ConfigSafe、IBM System Management Tools、およびその他のプログラムの使用法』を参照してください。
 - b. ハード・ディスクからこのユーティリティー・プログラムを削除は、ハード・ディスクからアプリケーション導入プログラムを削除します。
 - c. 内容の表示は、Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、IBM System Management Tools に関する情報を表示します。
6. 操作を完了するには、適当な選択をして画面の指示に従います。

オンライン・ブックを見る

IBM ウェルカム・センターから、解説書などのオンライン・ブックにアクセスできます。オンライン・ブックにアクセスするには、次の手順を実行してください。

1. 「Windows 95 へようこそ」の画面が開いている場合は、閉じます。
2. **IBM** ウェルカム センターアイコンをダブルクリックします。

3. IBM ウェルカム・センターのウィンドウで、オンライン・ライブラリーをクリックし、次に表示したいブックの名前までスクロールしてクリックします。

AntiVirus、ConfigSafe、IBM System Management Tools、およびその他のプログラムの 使用法

ここでは、本製品付属の Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、IBM System Management Tools、およびその他のプログラムについて説明します。

ご使用のコンピューターには Windows 95 の提供する標準デスクトップ・プログラムが含まれています。それらはマイ・コンピューター、受信トレイ、ごみ箱、インターネット、プリーフケース、および Microsoft Network などです。さらに、「スタート」メニューの「プログラム」からアクセスする、Windows 95 標準プログラムが付属しています。それらは、アクセサリ、スタートアップ、MS-DOS プロンプト、Windows エクスプローラーなどです。これらのグループのソフトウェアについては、Windows 95 の説明書またはオンライン・ヘルプを参照してください。

さらに、本製品にはデスクトップ上にその他の便利なアプリケーションが IBM によって提供されています。Microsoft Internet Explorer 4.0x は、Internet Explorer のアップデート版で、すぐにインストールすることができます。このアプリケーションにより、ユーザーの所属する企業内のイントラネットまたはワールド・ワイド・ウェブ上の情報を容易に検索することができます。(Microsoft 社は本製品に事前導入されている Windows 95 オペレーティング・システム とともに Internet Explorer 3.02 を提供しています。IBM はハード・ディスク上に Microsoft の Internet Explorer 4.0x をすぐにインストールできる形で提供しており、いつでもデスクトップから容易にインストールすることができます。)

Internet Explorer 4.0x をインストールするには、デスクトップ上の **IE4** セットアップアイコンをダブルクリックします。画面の指示に従ってください。バージョン 4.0x をインストールすると、デスクトップ画面の右側にチャンネル・バーが現れます。

注: Internet Explorer を使用するためには、ご使用のコンピューターがユーザーの所属する企業のイントラネットまたはワールド・ワイド・ウェブ(あるいはこれらの両方)に接続されている必要があります。ワールド・ワイド・ウェブへの接続方法、ならびに Internet Explorer の詳細

については、本製品付属の Microsoft Windows 95 のマニュアルを参照してください。

さらに追加のソフトウェアがサポート CD で提供されています。詳細については、41ページの第5章、『サポート CD の使用方法』を参照してください。診断ソフトウェアについては、45ページの第6章、『診断プログラムの使用方法』を参照してください。

Norton AntiVirus for IBM

Norton AntiVirus for IBM プログラムは、コンピューターからウィルスを検出して除去する包括的なアンチウィルス製品です。Norton AntiVirus for IBM プログラムを導入するには、次の手順を実行します。

1. 「Windows 95 へようこそ」の画面が開いている場合は、閉じます。
2. **IBM** ウェルカム センターアイコンをダブルクリックします。
3. **IBM** ウェルカム・センターのウィンドウで、始めにをクリックします。関連した情報が表示されます。
4. 追加ソフトウェアの導入 セクションのアプリケーション導入プログラムの起動までスクロールしてクリックします。
5. サポート・ユーティリティーのメニューが表示されたら、アプリケーションの導入ボタンをクリックします。導入の選択 ウィンドウで、**Norton AntiVirus for IBM** をクリックして強調表示します。
6. 追加ボタンをクリックしてタイトルを右側のパネルに移動します。その後 導入ボタンをクリックします。

このプログラムを導入した後に、現在の設定の変更または表示を行いたい場合には、次の手順を実行します。

1. Windows スタート・ボタンをクリックします。
2. プログラム、**Norton AntiVirus** を選択して、**Norton AntiVirus** をクリックします。
3. Norton AntiVirus ウィンドウにおいてオプションをクリックします。
4. 画面上部のタブをクリックし、設定を確認し、必要なら変更します。変更した設定を保存するには、各ウィンドウで「**OK**」をクリックします。

5. Norton AntiVirus メイン・メニューに戻り、スケジューラをクリックします。
6. 何らかの変更を行った場合でそれを保管したいときは、「OK」ボタンをクリックします。

サポート文書はオンラインで提供されています。この資料にアクセスするには、Windows のスタート・ボタンをクリックします。次にプログラム、**Norton AntiVirus**、**Norton AntiVirus** マニュアル、リファレンス・ガイドまたはユーザズ・ガイドを選択します。（事前に Adobe Acrobat を導入する必要があります。）

ConfigSafe

ConfigSafe プログラムは、Windows 用の、包括的なシステム構成情報の記録および回復ツールです。このプログラムは、デスクトップで障害が発生したり、使用できなくなった、もしくは開始できなくなった場合にユーザー（またはサポート担当者）が簡単にシステムを復元できるようにする機能を提供します。

ConfigSafe プログラムの特長には、以下のものがあります。

- メニュー方式のグラフィカル・インターフェース。
- スナップショット機能。この機能は、システム構成情報を自動的に取り込み、通常のスケジュールに保存します。この情報には、システム・ファイル、ハードウェア構成、ファイル・バージョン、ネットワーク接続、およびレジストリー情報が含まれます。
- 構成復元機能。この機能により、ほんの数秒間で、システムを直前の（または出荷時導入）構成へ復元することができます。
- UNDO 機能。この機能を使用すると、最後に復元された変更を取り消して、直前の構成に戻ることができます。
- SOS (DOS 復元ユーティリティー) 機能。この機能を使用すると、Windows デスクトップにアクセスできない場合にシステムを復元することができます。
- 基本システム構成に対して（故意にまたは無意識で）行われた変更の自動追跡。

- レポート機能。この機能を使用すると、システム構成変更に関する即時レポートを生成する（その後、表示または印刷する）ことができます。レポートは、最後の 1 週間で、あるいは出荷時導入済み構成の後で発生した変更のリストといった、重要情報を提供することができます。

これらのレポートは、システムの障害追及を行う際に役立ち、また問題解決の際に役立つように、サポート担当が表示したり、ファクシミリで送ることができます。

- リモート・アシスタンスを得るための、他のプログラム (CoSession など) との併用機能。
- 構成情報のバックアップやデータ収集といった、時間のかかる作業の自動実行。
- ハードウェアまたはソフトウェアの変更に先立って現行のシステム設定を簡単に取り込む方法 (ポイントしてクリック)。これにより、変更が行われたときに問題が発生した場合に、即時に回復する手段が提供されません。
- 特定の必要を満足させる、カスタマイズ可能な機能。

ConfigSafe は、特に、新しいアプリケーションまたはアダプターの導入後に問題が発生した場合に、貴重な障害追及ツールとなります。システム構成に変更を行う前に、ConfigSafe を使用して、現在稼動している構成のスナップショットを作成してください。こうしておくことで、構成ファイルでの変更によりコンピューターが使用不能になった場合にその構成に容易に戻ることができます。

ご自分で問題を解決できず、システム管理者の援助が必要な場合には、システム管理者に連絡する前に、ConfigSafe を使用して、構成の最新の変更に関するレポート作成してください。システム管理者は、このレポートに記載された情報を使って、ユーザーが問題を解決できるよう援助します。

ConfigSafe プログラムを導入するには、以下の手順を実行します。

1. 「Windows 95 へようこそ」の画面が開いている場合は、閉じます。
2. **IBM** ウェルカム センターアイコンをダブルクリックします。
3. **IBM** ウェルカム・センターのウィンドウで、始めにをクリックします。関連した情報が表示されます。

4. 追加ソフトウェアの導入 セクションのアプリケーション導入プログラムの起動までスクロールしてクリックします。
5. サポート・ユーティリティーのメニューが表示されたら、アプリケーションの導入ボタンをクリックします。導入の選択 ウィンドウで、**ConfigSafe** をクリックして強調表示します。
6. 追加ボタンをクリックしてタイトルを右側のパネルに移動します。その後 導入ボタンをクリックします。

導入が終わってからプログラムにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. スタート・ボタンをクリックします。
2. プログラム、**ConfigSafe** を順に選択してから、**CONFIGSAFE** をクリックします。

サポート資料が、オンライン・ヘルプに組み込まれています。オンライン・ヘルプにアクセスするには、Windows のスタート・ボタンをクリックします。次に、プログラム、**ConfigSafe**、**CONFIGSAFE** を選択します。

IBM System Management Tools

IBM System Management Tools は以下の構成要素から構成されます。

- Desktop Management Interface (DMI) Service Provider 2.0
- Desktop Management (DM) BIOS 2.0 Instrumentation
- IBM PC System Monitor Instrumentation
- IBM AssetCare
- IBM Alert on LAN
- IBM SMART Reaction Client
- Intel® LANDesk® Client Manager 3.1

IBM System Management Tools を導入すると、すべての構成要素が導入されます。Intel LANDesk Client Manager および IBM SMART Reaction Client はオプションで含めることもまた除外することもできます。

注: IBM Alert on LAN はハードウェア・サポートを必要とします。この機能は一部のコンピューター・モデルのみがサポートしています。

IBM System Management Tools の構成要素

IBM System Management Tools の各構成要素について以下に説明します。

DMI Service Provider 2.0 は、デスクトップ・コンピューターのソフトウェアおよびハードウェア製品から情報を集め、管理するプログラムです。デスクトップ・コンピューターは、独立型のももネットワークにリンクされているものでも管理できます。各 DMI 適合構成要素は、その情報を DMI Service Provider に登録し、その情報は Management Information Format (MIF) データベースに記憶されます。DMI Service Provider は管理アプリケーション (Intel LANDesk Client Manager など) からの要求およびその他のコマンドを処理し、要求された情報を MIF データベースから検索したり、あるいは必要に応じてその要求を DMI 適合型製品に渡します。サポート資料は DMI Browser のヘルプ資料に組み込まれています。

DM BIOS 2.0 Instrumentation は、いったんコンピューターが稼働するとアクセスが困難となるハードウェア情報を収集します。DM BIOS Instrumentation はコンピューター BIOS から情報を検索し、この情報は DMI Browser を使って見ることができます。報告されるハードウェア情報には、メモリー構成、キャッシュ・サイズ、USB サポート、製品番号、システムのシリアル番号、BIOS バージョン、マイクロプロセッサ情報、システムのスロット情報などが含まれます。

IBM PC System Monitor Instrumentation はシステム・ボードの温度、システム電圧、およびファン速度を監視します。またコンピューター・カバーの取り外しについても検出します。データは DMI Service Provider に報告され、これには DMI Browser あるいは DMI 互換型システム管理ソフトウェアを使ってアクセスすることができます。IBM Netfinity Services または Intel LANDesk Client Manager などのシステム管理ソフトウェアを使用して、問題発生時にユーザーまたはシステム管理者に警報を送ることができます。

IBM AssetCare は、ご使用のコンピューター内の Enhanced Asset Information Area の構成およびデータの検索を行うアプリケーションです。Enhanced Asset Information Area は、構成要素の追跡および盗難検出機能を提供する EEPROM です。IBM AssetCare は、主要システム構成要素のシリアル番号をはじめ、リース、保証、およびユーザーおよびシステ

ム情報の追跡を可能とします。DMI 互換型ネットワーク管理ソフトウェアを使用して、カスタム化された情報のスペースを提供するパーソナル・データ・フィールドを作成することも、IBM AssetCare を使用して行うことができます。IBM AssetCare が構成の変更を検出すると、DMI 互換型警報を出します。さらに、ワイヤレス読取装置を使用して、IBM AssetCare が提供するコンピューターに関する情報にアクセスすることができます。

IBM Alert on LAN は、一部のモデルに付属する Alert on LAN ハードウェアを構成し、監視します。IBM Alert on LAN を使用して、自己診断テスト (POST)、オペレーティング・システムの問題、環境問題 (高システム温度およびシステム電圧変動など) および一部の機密保護違反 (コンピューター・カバーの取り外しなど) について LAN 管理者に通知することができます。Wake on LAN と同様、IBM Alert on LAN はコンピューターの電源がオフのときでも機能します。管理者は、IBM Netfinity Manager 5.10.3 または Intel LANdesk Client Manager Administrator 3.3 などのシステム管理ソフトウェアを使用して、IBM Alert on LAN を監視することができます。

IBM SMART Reaction Client は、Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology (SMART) ハード・ディスクを備えたコンピューター上のデータを保護するためのプログラムです。SMART はハード・ディスクの状態を監視し、ドライブ内に障害の可能性がある場合は、予測的障害分析 (PFA) 警報を生成します。IBM SMART Reaction Client はこれらの警報を処理し、それらに対する対応策を行います (クライアント・ワークステーション上での画面メッセージの表示や、特定ワークステーションにハード・ディスク障害の可能性のあることを他のワークステーションに知らせるなど)。IBM SMART Reaction Client は高機能なバックアップおよび復元プログラム、ならびにミラーリング・プログラムを持ち、それらを使用して最大 64 個のフォルダーの内容を別のハード・ディスクに動的に“ミラーリング”することができます。ソース・ファイルが保管されると、ミラー・ファイルは同一データを持つように自動的に更新されます。IBM SMART Reaction Client は、バックアップのスケジューリング、復元、およびミラー処理のためのスケジューラーも内蔵しています。IBM SMART Reaction Manager プログラムを最低 1 台のネットワーク・コンピューター上に導入し、稼働させないと、IBM SMART Reaction Client をクライアント・ワークステーションに導入することはできません。

Intel LANDesk Client Manager 3.1 は、IBM System Management Tools のすべての構成要素にアクセスするためのグラフィカル・ユーザー・インターフェースを提供するプログラムです。LANDesk Client Manager は、PC ヘルス・メーターおよび問題の起こる可能性に関する警報を発するためのメカニズムを含む、分かりやすい診断ツールも提供します。このアプリケーションは自動的にメモリーおよびその他のハードウェアを調べて障害の可能性を検出し、変更管理および復元について定期的に重要構成ファイルの状態を調査します。LANDesk Client Manager を使用してユーザー自身のコンピューターを管理することも、あるいは Intel LANDesk Client Manager Administrator とともに使用してネットワーク管理者がユーザーのコンピューターをリモート側で監視できるようにすることができます。

IBM System Management Tools の導入

以下のようにして IBM System Management Tools を導入します。

1. 「Windows 95 へようこそ」のウィンドウが開いていたら、閉じます。
2. **IBM** ウェルカム センターアイコンをダブルクリックします。
3. IBM ウェルカム・センターのウィンドウで、始めにをクリックします。関連した情報が表示されます。
4. 追加ソフトウェアの導入 セクションのアプリケーション導入プログラムの起動までスクロールしてクリックします。
5. サポート・ユーティリティーのメニューが表示されたら、アプリケーションの導入ボタンをクリックします。導入の選択 ウィンドウで、**IBM System Management Tools Setup** をクリックして強調表示します。
6. 追加ボタンをクリックしてタイトルを右側のパネルに移動します。その後 導入ボタンをクリックします。

導入後に IBM System Management Tools にアクセスするには以下のようになります。

1. Windows スタート・ボタンをクリックします。
2. プログラム、**IBM System Management Tools Setup** の順に選択していき、希望する選択肢をクリックします。

オンライン・ヘルプが必要なときは、Windows スタート・ボタンをクリックします。次に プログラム、**IBM System Management Tools**、**DMI MIF** ブラウザ (ローカル) を選択します。

本製品の終了方法

保存していないデータを失ったり、プログラムに損傷を与えたりすることのないように、コンピューターの電源を切る前には、必ず、終了手順を実行してください。

コンピューターを終了するには、次の手順を実行します。

1. 作業中のデータを保存します。
2. 開いているアプリケーションをすべて閉じます。
3. Windows スタート・ボタンをクリックします。
4. **Windows** の終了をクリックし、はい (Y) をクリックします。

次にコンピューターの電源を入れたときに、Windows 95 は、最後にコンピューターを終了したときに開いていたウィンドウを復元します。

第3章 他のオペレーティング・システムの導入

Microsoft Windows NT Workstation 3.51 または 4.0、Microsoft Windows 95、あるいは OS/2 を導入または再導入する場合は、ソフトウェアまたはデバイス・ドライバが必要となる場合があります。ハードウェア固有のサポート・ソフトウェアが、サポート CD で入手できます。

いずれのオペレーティング・システムを導入する場合でも、事前に必ず最新のフィックス・パックや CSD などを入手してください。これら入手するには、オペレーティング・システムの製造元に問い合わせるか、アクセスできれば製造元の Web サイトをチェックしてください。

オペレーティング・システムを導入するには、そのオペレーティング・システムに付属の資料に記載されている手順と、フィックス・パックや CSD など (ある場合) に従ってください。その後、41ページの第5章、『サポート CD の使用方法』に記載されている手順に従って、サポート・ソフトウェアを導入します。

本製品に付属している *Microsoft Windows 95* CD から Windows 95 を再導入する手順は、23ページの第4章、『Windows 95 再導入時の詳細手順』に記載されています。

この章は、Windows 95 を再導入する場合の手順をステップごとに細分化して詳細に記載しています。尚、ネットワークは、標準装備 (モデルによる) のイーサネットを使用する場合について記載しています。

A. Windows 95 のインストール

必要なもの：

- Microsoft Windows 95 CD-ROM セットアップ起動ディスク
(以下、セットアップ起動ディスクと呼びます)
- Microsoft Windows 95 With USB Support Disc
- 未使用ディスク一枚 (セットアップ起動ディスクのバックアップ用)
- 未使用ディスク一枚 (起動ディスク用)

重要:

既にハードディスクに必要なデータが入っている場合は、まず、そのファイルをディスク等に保存します。

ステップ	操作内容
001.	あらかじめ、同梱されている " セットアップ 起動ディスク " のバックアップを取ります。方法としては " MS-DOS プロンプト " より Diskcopy を使って行ないます。
002.	セットアップ 起動ディスクのバックアップディスクを A ドライブに入れ、Power ON します。
003.	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"><p>Windows 95 のインストールを行ないます。 C ドライブの中身をフォーマットする必要がありますので、 (中略) 続けるにはどれかのキーを押してください . . .</p></div> <p>と表示されます。メッセージに従い、いずれかのキーを押します。</p>

ステップ 操作内容

004.

同梱されてきた Windows 95 の CD-ROM を CD-ROM ドライブに
セットしてください。
続けるにはどれかキーを押してください...

と表示されます。メッセージに従い、" Windows 95 With USB
Support Disc" を CD-ROM ドライブにセットし、いずれかのキーを
押します。

005.

ドライブ C をフォーマットします。
(中略)
続けるにはどれかキーを押してください...

と表示されます。メッセージに従い、いずれかのキーを押します。

006.

注意! ドライブ C: のハードディスクのデータはすべてなくなります。
フォーマットしますか (Y/N)?

と表示されます。メッセージに従い、「Y」キーを押し、**Enter** キー
を押します。

007.

フォーマットが完了すると、以下のメッセージが表示されます。

ボリュームラベルを入力してください。
半角で 11 文字、全角で 5 文字以内
必要なければ、Enter キーを押してください。

ボリュームラベルを入力し、**Enter** キーを押します。

ステップ 操作内容

008.

セットアップへようこそ。
セットアップ プログラムは、コンピュータで Windows 95 を
実行するための準備を行ないます。
Enter キーを押すと、Windows をセットアップします。
セットアップのヘルプを見るには、F1 キーを押してください。
セットアップを中止するには、F3 キーを押してください。
注意：（略）
セットアップを続けるには、Enter キーを押してください。

と表示されます。メッセージに従い、**Enter** キーを押します。

009.

Windows をインストールする準備をしています。
準備をしています。しばらくお待ちください....
システムのチェックを行ないます。
Enter キーを押すと続行します。Escキーを押すと、
セットアップを中止します。

と表示されます。メッセージに従い、**Enter** キーを押します。

010. ソフトウェア使用許諾契約の画面が表示されるので、**Page Down** キー
を使用して読み、同意する場合は、「はい (Y)」をクリックします。

011. Windows 95 セットアップ ウィザードが表示されます。

「次へ」をクリックします。

012. " ディレクトリの選択 " の画面が表示されます。

ここでは、" C:\WINDOWS " を選択し、「次へ」をクリックします。

013. 次に " セットアップ方法 " を選択します。今回は " 標準 " を選び、「次
へ」をクリックします。

014. 次に " Certificate of Authenticity " を入力します。これは、同梱され
ているマニュアル「ファーストステップガイド Microsoft Windows
95」の表紙に書かれています。入力後、「次へ」をクリックします。

015. " 名前 " と " 組織名 " を入力し、「次へ」をクリックします。

ステップ	操作内容
016.	<p>" コンピュータの調査 " の画面が表示されます。</p> <p>本製品では、標準でイーサネットのアダプターが搭載されていますが、専用のドライバーは後述の手順で導入するため、ここでは、ハードウェアの調査をしない方法を選択します。従って、チェックボックスには、何もチェックせず、「次へ」をクリックします。</p> <p>なお、他にデバイスを追加していて、Windows 95 標準のドライバーを使用する場合は、そのデバイスを調査する方法を選んでください。</p>
017.	<p>" Windows ファイルの選択 " の画面が表示されます。</p> <p>ここでは、" 標準的なオプションをインストールする (推奨) (I) " を選択し、「次へ」をクリックします。</p>
018.	<p>" 起動ディスク " の画面が表示されます。</p> <p>ここでは、" はい (通常はこちらを選んでください)(Y) " を選択し、「次へ」をクリックします。</p>
019.	<p>" コピー開始 " となります。「次へ」をクリックします。</p>
020.	<p>" ディスクの挿入 " となります。ディスクのラベルに " Windows 95 起動ディスク " と記入し、A ドライブから " セットアップ起動ディスク " のバックアップ・ディスクを取り出し、代わりに未使用のディスクを挿入します。そして、「OK」をクリックします。</p>
021.	<p>" Windows 95 起動ディスク " が完成したら、ディスクをAドライブから取り出し、「OK」をクリックします。</p>
022.	<div data-bbox="472 1151 1153 1298" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p data-bbox="525 1178 639 1201">ディスクの挿入</p> <p data-bbox="525 1213 968 1266">ディスク " Setup Boot Disk " が必要です。 このディスクはコンピュータの製造元から配布されています。 [OK] を押すと続行します。</p> </div> <p data-bbox="472 1324 1168 1407">と表示されます。メッセージに従い、セットアップ起動ディスクのバックアップ・ディスクを A ドライブに挿入し、「OK」をクリックします。</p>

ステップ	操作内容
023.	<div data-bbox="508 358 1183 469" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p data-bbox="558 384 1090 437">Setup Boot Disk 上のファイル IBMIDECD.SYS が見つかりませんでした。 Setup Boot Disk を選択したドライブに入れて、[OK]を押してください。</p> </div> <p data-bbox="508 499 1165 552">と表示されます。この場合は、ファイルのコピー元を「A:¥」にして「OK」をクリックします。</p>
024.	<p data-bbox="505 578 872 601">" コピー完了 " の画面が表示されます。</p> <p data-bbox="505 627 1186 719">画面に従い、A ドライブから「セットアップ起動ディスクのバックアップ・ディスク」を、また CD-ROM ドライブから「Windows 95 With USB Support Disc」を取り出し、「完了」をクリックします。</p>
025.	<p data-bbox="505 742 1186 822">システムが再起動され、「日付と時刻のプロパティ」の画面が表示されます。日付、時刻、タイムゾーンが正しくない場合は正しい値を入力し、「閉じる」をクリックします。</p>
026.	<p data-bbox="505 848 943 871">次に " プリンタウィザード " が表示されます。</p> <p data-bbox="505 892 1186 971">プリンターを接続している場合は、「次へ」をクリックし、指示に従ってプリンターの設定を進めます。接続しない場合は、「キャンセル」をクリックします。</p>
027.	<p data-bbox="505 998 1065 1021">プリンターウィザードにてプリンターの設定が完了すると、</p> <div data-bbox="508 1051 1183 1192" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p data-bbox="558 1095 1043 1157">システムの設定を完了しました。 新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動してください。 [OK]を押すと、再起動します。</p> </div> <p data-bbox="505 1218 951 1241">と表示されるので、「OK」をクリックします。</p>
028.	<p data-bbox="505 1271 1186 1324">" Windows 95 へようこそ " のウィンドウが表示されたら、Windows 95 本体の導入は完了です。</p> <p data-bbox="505 1351 786 1374">「閉じる」をクリックします。</p>

B. キーボードのプロパティ

必要なもの： Microsoft Windows 95 With USB Support Disc

ステップ	操作内容
029.	次にキーボードのプロパティを確認します。
030.	「スタート」->「設定(S)」とマウスで選択し、「コントロールパネル(C)」をクリックします。
031.	「キーボード」のアイコンをダブルクリックします。
032.	"情報" のタブをクリックします。
033.	キーボードの種類に " 101 英語キーボード " が表示されている場合、「変更 (C)」をクリックします。
034.	" デバイスの選択 " の画面が表示されます。「すべてのデバイスを表示 (A)」を選択します。
035.	モデルの中から、「106 日本語 (A01) キーボード (Ctrl+英数)」を選択し、「OK」をクリックします。
036.	画面に " ディスクの挿入 " のウィンドウが表示されるので、CD-ROM ドライブに " Microsoft Windows 95 With USB Support Disc " を挿入し、「OK」をクリックします。
037.	キーボードの変更が完了すると、「閉じる」をクリックします。
038.	" システム設定の変更 " の画面が表示されるので、「はい (Y)」をクリックし、再起動します。
039.	再起動後、「Windows 95 へようこそ」のウィンドウが表示されるので、左下の " Windows 95 を次に起動するときも、このダイアログを表示する (S) " のチェックをはずした後、このウィンドウを閉じます。また、引き続き、コントロールパネルもクローズします。

C. USB サポートドライバーのインストール

必要なもの：Microsoft Windows 95 With USB Support Disc

ステップ	操作内容
040.	"Microsoft Windows 95 With USB Support Disc " を CD-ROM ドライブに挿入します。(前述のステップでキーボードの種類を変更した場合は、既に、CD-ROM が挿入されています。)
041.	「スタート」-> 「ファイル名を指定して実行(R)」をクリックします。
042.	名前に d:\¥other¥usb¥usbsupp と入力し、「OK」をクリックします。 (ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
043.	" Microsoft USB Supplement (QFE) " のウィンドウが表示されます。「はい(Y)」をクリックします。
044.	ソフトウェア使用許諾契約の画面が表示されるので、 Page Down キーを使用して読み、同意する場合は、「はい(Y)」をクリックします。
045.	USB サポート ドライバーのインストールが完了後、CD-ROM ドライブから、Windows 95 の CD-ROM を取り出し、「OK」をクリックします。システムが再起動されます。

D. Intel 82371xB INF ファイルの更新

必要なもの：サポート CD

ステップ	操作内容
046.	「スタート」-> 「ファイル名を指定して実行(R)」をクリックします。
047.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
048.	d:\¥ibmsetup と入力し、OK をクリックします。 (ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
049.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のボタンをクリックします。
050.	「Intel 82371xB INF Update Installer」を選択し、「追加」のボタンをクリックします。

ステップ	操作内容
051.	「導入」のボタンをクリックします。
052.	ここではサポート CD から直接導入する場合を選択し「OK」ボタンをクリックします。
053.	表示された Readme に目を通し、このメモ帳をクローズします。
054.	「メニューに戻る」をクリックし、「終了」をクリックします。
055.	「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
056.	名前に d:\win95 ¥ 82371xb¥setup と入力し、「OK」をクリックします。 (ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
057.	" Welcome " が画面が表示されると、「Next」をクリックします。
058.	" Software License Agreement " が表示されます。同意する場合は、「Yes」をクリックします。
059.	" Intel 82371xB Update Installer " 画面が表示されるので、「Next」をクリックします。
060.	導入が終了したら、「OK」をクリックします。
061.	再起動され、システム設定の変更が終了すると、再び、再起動となります。 「はい (Y)」をクリックしてください。

E. IBM 100/10 EtherJet PCI アダプター・ドライバーの導入

必要なもの：

- サポート CD
- 未使用のディスク 2 枚 (IBM 100/10 EtherJet PCI アダプター・ドライバー用)
- Microsoft Windows 95 With USB Support Disc

ステップ	操作内容
062.	「スタート」->「ファイル名を指定して実行(R)」をクリックします。
063.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。(Intel 82371xB INF ファイルをこの直前に更新している場合は、既に挿入されています。)
064.	d:\ibmsetup と入力し、「OK」をクリックします。 (ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
065.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のボタンをクリックします。
066.	「IBM 100/10 EtherJet PCI アダプター・ドライバー」を選択し、「追加」のボタンをクリックします。
067.	「導入」のボタンをクリックします。
068.	ディスク・ファクトリーを使用してディスクを作成します。「はい」をクリックします。
069.	未使用のディスクを 2 枚用意し、「はい」をクリックします。
070.	1 枚目のディスクを A ドライブに入れ、「OK」をクリックします。
071.	「はい」をクリックします。
072.	書き込みが終了したら、ドライブからディスクを取り出し、指定されたラベルを付け、「OK」をクリックします。
073.	2 枚目のディスクを入れ、「OK」をクリックし、以下上記 71、72 のステップを繰り返します。

ステップ	操作内容
074.	ディスクットの作成が終了しました。「OK」をクリックします。
075.	「スタート」->「設定(S)」->「コントロール パネル(C)」とクリックします。
076.	「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
077.	「追加」をクリックします。
078.	そのあと、「アダプタ」をクリックし、「追加 (A)」ボタンをクリックします。
079.	" ネットワークアダプタの選択 " の画面が表示されます。「ディスク使用(H)」をクリックします。
080.	配布ファイルのコピー元を A: のまま、ドライブ A にさきほど作成した IBM 100/10 EtherJet PCI Adapter のドライバー・ディスク 1 枚目を入れ、「OK」をクリックします。
081.	「IBM 100/10 EtherJet PCI Adapter」を選択して、「OK」をクリックします。 さらにご使用になる " プロトコル " の設定、" ユーザー情報 " に含まれるコンピュータ名、ワークグループ名等を設定します。
082.	以上の入力完了したら、「OK」をクリックします。
083.	" ディスクの挿入 " のウィンドウが表示されるので、CD-ROM ドライブからサポート CD を取り出し、代わりに、" Windows 95 With USB Support Disc " を挿入し、「OK」をクリックします。 " ファイルのコピー " のウィンドウが表示され、ファイルが見つからない、とのメッセージが出た場合は、ファイルのコピー元を " D:¥WIN95 " にセットし、「OK」をクリックします。(ただし、D: は CD-ROM のドライブ名です。)
084.	" システム設定の変更 " の画面が表示されるので、「はい(Y)」をクリックし、再起動します。
085.	再起動後、「システム」のアイコンをダブルクリックします。
086.	" デバイス マネージャー " のタブをクリックします。
087.	" その他のデバイス " を開きます (" +"をクリックします)。

ステップ	操作内容
088.	" ? PCI Ethernet Controller " が表示されている場合は、このデバイスをクリックし、" 削除 " をクリックします。
089.	" デバイス削除の確認 " が表示されたら、「OK」をクリックします。
090.	「閉じる」をクリックし、コントロールパネルもクローズします。

F. ビデオのドライバーの導入

必要なもの： サポート CD

ステップ	操作内容
091.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行(R)」をクリックします。
092.	CD-ROM ドライブから、" Windows 95 With USB Support Disc " を取り出し、代わりに、" サポート CD " を挿入します。
093.	d:\ibmsetup と入力し、「OK」をクリックします。 (ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
094.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のボタンをクリックします。
095.	「S3 Trio 3D Graphics ドライバー for Windows 95」を選択し、「追加」のボタンをクリックします。
096.	「導入」のボタンをクリックします。
097.	ここではサポート CD から直接導入する場合を選択し「OK」ボタンをクリックします。メモ帳が開き、注意事項に目を通し、クローズします。
098.	「スタート」->「設定(S)」->「コントロール パネル(C)」とクリックします。
099.	[画面] アイコンをダブルクリックします。[画面のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
100.	[ディスプレイの詳細] タブをクリックします。

ステップ	操作内容
101.	「詳細プロパティ (A) ボタン」をクリックします。" ディスプレイの詳細プロパティ " が表示されます。
102.	[変更] をクリックします。" デバイスの選択 " が表示されます。
103.	[ディスク使用 (H)] をクリックします。" フロッピーディスクからインストール " が表示されます。
104.	" 配布ファイルのコピー元 " に次のように入力して、「OK」をクリックします。 d:\win95\STR13w95 (ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
105.	" S3 Inc. Trio 3D " を選択し、「OK」をクリックします。
106.	" ディスプレイの詳細プロパティ " の「閉じる」をクリックします。
107.	希望の解像度、色数に設定変更し、「更新」をクリックします。ディスプレイの種類が指定されていない、というメッセージが表示された場合は、「はい (Y)」をクリックし、ここでディスプレイを指定します。
108.	「再起動しますか ? 」と表示されるので、「はい(Y)」をクリックします。

G. Cirrus Logic CrystalClear Audio ドライバーの導入

必要なもの :

- サポート CD
- Cirrus Logic CrystalClear Audio 用ディスクットに使用する、未使用のディスクット 1 枚
- Microsoft Windows 95 With USB Support Disc

ステップ	操作内容
109.	画面左下の「スタート」-> 「ファイル名を指定して実行(R)」をクリックします。
110.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。

ステップ	操作内容
111.	d:\ibmsetup と入力し、 Enter キーを押します。(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
112.	「アプリケーションとデバイス・ドライバの導入」のボタンをクリックします。
113.	「Cirrus Logic CrystalClear Audio for Windows 95」を選択し、「追加」のボタンをクリックします。
114.	「導入」のボタンをクリックします。
115.	ディスク・ファクトリーを使用してディスクを作成します。「はい」をクリックします。
116.	2MB(HD) の未使用のディスクを用意し、「はい」をクリックします。
117.	ディスクを A ドライブに挿入し、「OK」をクリックします
118.	「はい」をクリックし、ディスクの内容が消去されることに同意します。
119.	書き込みが終了すると、ドライブからディスクを取り出し、指定されたラベルを付け、「OK」をクリックします。
120.	「OK」をクリックします。
121.	「メニューに戻る」をクリックします。
122.	「終了」をクリックします。
123.	作成した「Cirrus Logic CrystalClear Audio for Windows 95」のディスクをドライブ A に挿入します。
124.	「スタート」->「ファイル名を指定して実行(R)」をクリックします。
125.	A:\SETUP と入力し、「OK」をクリックします。
126.	システムがシャットダウンしたならば、A ドライブからディスクを抜き取ります。
127.	再起動の途中で、「ディスクの挿入」のウインドウが表示されるので、CD-ROM ドライブよりサポート CD を取り出し、代わりに、「Windows 95 With USB Support Disc」を挿入し、「OK」をクリックします。
128.	ファイルのコピー元は D:\WIN95 に設定します。

H. Logitech ScrollPoint Mouse のドライバーの導入

必要なもの： サポート CD

ステップ	操作内容
129.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行(R)」をクリックします。
130.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
131.	d:\ibmsetup と入力し、 Enter キーを押します。(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
132.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のボタンをクリックします。
133.	「Logitech ScrollPoint Mouse デバイスドライバー for Windows 95」を選択し、「追加」のボタンをクリックします。
134.	「導入」のボタンをクリックします。
135.	「高速セットアップ」のアイコンをクリックします。
136.	「OK」をクリックします。
137.	マウス・ドライバーの導入が完了したら、システムを再起動させます。

I. IBM 3 モード FDD デバイス・ドライバーの導入

必要なもの： サポート CD

重要:

" IBM 3 モード FDD デバイス・ドライバー " は、必要に応じて導入してください。

ステップ	操作内容
138.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行(R)」をクリックします。
139.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。(ビデオのドライバーをこの直前に導入している場合は、既に挿入されています。)

ステップ	操作内容
140.	d:\¥ibmsetup と入力し、 Enter を押します。 (ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
141.	「アプリケーションとデバイス・ドライバの導入」のボタンをクリックします。
142.	「IBM 3 モード FDD デバイス・ドライバー for Windows 95」を選択し、「追加」のボタンをクリックします。
143.	「導入」のボタンをクリックします。
144.	ここではサポート CD から直接導入する場合を選択し「OK」ボタンをクリックします。
145.	表示された Readme の「3 モード FDD ドライバの導入方法」の手順に従い、「スタート」->「設定(S)」->「コントロール パネル(C)」とクリックします。
146.	[ハードウェア]アイコンをダブルクリックします。"ハードウェア ウィザード"が表示されるので、「次へ」をクリックします。
147.	自動検出を行わないように、「いいえ」を選択し、「次へ」をクリックします。
148.	"ハードウェアの種類"の中から、"フロッピーディスク コントローラ"を選んでダブルクリックします。
149.	「ディスク使用 (H)」をクリックします。
150.	配布ファイルのコピー元に次のように入力して、「OK」をクリックします。 d:\¥win95¥ibm3fdd (ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
151.	"IBM 3mode-Floppy" が選択されていることを確認して「次へ」をクリックします。
152.	「完了」をクリックして、ドライバーの導入を完了させます。
153.	"システム設定の変更"の画面が表示されるので、「はい (Y)」をクリックし、システムを再起動します。

J. MS - IME97 の導入

必要なもの： Microsoft Windows 95 With USB Support Disc

ステップ	操作内容
154.	「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R) 」をクリックします。
155.	CD-ROM よりサポート CD を取り出し、" Microsoft Windows 95 With USB Support Disc " を挿入します。
156.	d:\other\msime97a\msime97 と入力し、「OK」をクリックします。 (ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
157.	"MS-IME97 for Windows 95 Upgrade セットアップ" の画面が表示されるので、「はい(Y)」をクリックします。
158.	使用許諾契約書を読み、同意する場合は、「はい (Y) 」をクリックします。
159.	「ここで再起動しますか?」というメッセージが表示されるので、「はい (Y) 」をクリックし、再起動します。
160.	CD-ROM ドライブから、" Microsoft Windows 95 With USB Support Disc " を取り出します。

K. 同梱アプリケーションのインストール

必要なもの： サポート CD

以下、必要に応じて、システムに付属のアプリケーションをサポート CD から導入します。

ステップ	操作内容
161.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R) 」をクリックします。
162.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
163.	d:\ibmsetup と入力し、 Enter キーを押します。 (ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)

ステップ	操作内容
164.	「アプリケーションとデバイス・ドライバの導入」のアイコンをクリックします。
165.	導入するアプリケーションを選び、「追加」のアイコンをクリックします。
166.	「導入」のアイコンをクリックします。後は、画面の指示に従ってください。

サポート CD からデバイス・ドライバーやその他のソフトウェアを導入または再導入する場合には、この章の情報を使用してください。

CD の機能

サポート CD には、各種のオペレーティング・システム環境のためのデバイス・ドライバー、およびその他のサポート・ソフトウェアが含まれています。

重要

サポート CD には、オペレーティング・システムは含まれていません。この CD は、お使いのオペレーティング・システムが本製品にすでに導入されていないと、使用できません。

この CD を使用して、次のことができます。

- CD-ROM ドライブが装備されたモデルへの、CD から一部のアプリケーションの直接導入。
- サポート CD にあるソフトウェア製品のローカル・エリア・ネットワーク (LAN) イメージを作成し、LAN ディスクから製品を導入する。
- CD から導入できないソフトウェア製品のディスクットを作成して、ディスクットから製品を導入する。

CD にあるユーティリティー・プログラムには、使いやすいグラフィカル・インターフェースと、ほとんどの製品の自動導入手順が備わっています。またユーティリティー・プログラムには、ヘルプ・システムと、ユーティリティー・プログラムの機能、CD から導入できるソフトウェア製品、およびこれらの製品がサポートする操作環境について説明している総合的な概要も用意されています。

サポート CD に入っている製品は、「IBM プログラムのご使用条件」およびサポート CD 中の「CD-ROM の概要を見る」に含まれている「ライセンス情報」の条件でライセンスを受けています。本冊子の付録Aに記載されているライセンス情報は、初期導入済みのソフトウェア用のものであり、サポート CD 中の「CD-ROM の概要を見る」に記載されているライセンス情報は、該当する CD ソフトウェア用のものです。

CD の始動

サポート CD のソフトウェアを導入したり、関連するデバイス・ドライバーやプログラムについての概要を表示したりするには、以下の手順を実行します。

1. CD-ROM ドライブに サポート CD を挿入します。
2. CD を始動します。Windows 95 または Windows NT 4.0 のデスクトップで、**IBM** ウェルカム センターをダブルクリックし、「システムのカスタマイズ」をクリックして、「サポート CD の起動」をクリックします。

あるいは

お使いのオペレーティング・システムに応じて、下記の手順で CD を開始します。

- Windows 95 または Windows NT 4.0 の場合: Windows のスタート・ボタンをクリックし、次にファイル名を指定して実行をクリックしてから次のように入力します。

```
e:¥ibmsetup
```

(ここで、e: は、CD-ROM ドライブ名です。) **Enter** を押します。

- Windows NT 3.51 の場合: Windows のプログラム・マネージャーのパネルから、メニュー・バーのアイコンをクリックし、ファイル名を指定して実行をクリックしてから、次のように入力します。

```
e:¥ibmsetup
```

(ここで、e: は、CD-ROM ドライブ名です。) **Enter** を押します。

- OS/2 の場合: OS/2 コマンド・プロンプトで、次のように入力します。

```
start /win e:¥ibmsetup
```

(ここで、e: は、CD-ROM ドライブ名です。) **Enter** を押します。

3. メインメニューが表示されたら、希望のオプションを選択して、その後は画面の指示に従います。

プログラムの導入が終わったら、スタート・メニューのプログラム選択項目からプログラムにアクセスできます。ほとんどのプログラムでは、サポート資料がオンライン・ヘルプに組み込まれています。また、オンライン資料が提供されているものもあります。

IBM 提供の診断プログラムを実行すれば、ハードウェアの問題と一部のソフトウェアの問題を診断できます。コンピューターについての情報を提供するユーティリティー・プログラムもいくつか含まれています。

注: 障害追及の図表や自己診断テスト (POST) エラー・メッセージに関する訂正手段などのその他の診断情報は、*ユーザーズ・ガイド* に記載されています。

Enhanced Diagnostics

IBM Enhanced Diagnostic のディスクット・イメージが、サポート CD で提供されています。この診断プログラムは、オペレーティング・システムとは関係なく動作します。Watergate Software の PC-Doctor は、診断とユーティリティーを実行するためのユーザー・インターフェースです。

このプログラムを使用して、本製品のハードウェア (および一部のソフトウェア) 構成要素をテストできます。一般にこのテスト方法は、他の方法が使用できない場合、またはハードウェアに関連すると思われる問題がうまく特定できなかった場合に使用します。

ここでは、以下のための手順を説明します。

- サポート CD から、*IBM Enhanced Diagnostic* ディスクットを作成する方法
- ディスクットからプログラムを始動する方法

IBM Enhanced Diagnostic ディスクットを作成するには、次の手順を実行します。

1. CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
2. 「Windows 95 へようこそ」ウィンドウが開いている場合には、閉じます。
3. **IBM** ウェルカム・センター をダブルクリックします。
4. IBM ウェルカム・センター・ウィンドウで、システムのカスタマイズをクリックします。関連した情報が表示されます。
5. サポート CD の起動をクリックします。

6. サポート CD のメニューが表示されたら、アプリケーションとデバイス・ドライバの導入ボタンをクリックします。
7. 導入の選択ウィンドウで、**IBM Enhanced Diagnostic (PC Doctor for DOS)** をクリックして強調表示し、追加ボタンをクリックしてタイトルを右側のパネルに移動します。その後導入ボタンをクリックします。
8. **Enter** を押してディスクет・ファクトリーを実行します。ウィンドウに表示される指示に従います。
9. ディスクет・ドライブに空の高密度ディスクетを挿入して、**Enter** を押します。
10. 処理が完了したら、ディスクетを取り出してラベルを貼ります。

Enhanced Diagnostic プログラムを始動するには、次の手順を実行します。

1. Windows 95 を終了して、コンピューターの電源を切ります。(手順については、19ページの『本製品の終了方法』を参照してください。)
2. 接続されている装置の電源を切ります。
3. *IBM Enhanced Diagnostic (PC Doctor for DOS)* ディスクетをドライブ A に挿入します。
4. 接続されているすべての装置の電源を入れてから、コンピューターの電源を入れます。
5. 画面の指示に従います。ヘルプを表示するには、**F1** を押します。

この冊子に記載のライセンス情報は、「IBM プログラムのご使用条件」により使用許諾される IBM 製および他社製の「プログラム」に適用されるものです。また、IBM が、この PC とともに提供するプログラムには、独自の使用条件を有するものもあります。これらのプログラムは、別段の定めがある場合を除き、特定物として現存する状態で提供され、法律上の瑕疵担保責任、商品性の保証および特定目的適合性の保証を含むすべての明示または黙示の保証は適用されません。

この冊子で参照しているプログラムには、すべての言語版で提供されていないもの、またはすべての国で入手可能とは限らないものもあります。また、プログラムによっては、実際に市販されているバージョンとは異なることがあります。共に出荷されるこの PC 用にカスタマイズされていることがあります。これらの「プログラム」はすべてのマニュアル等の資料を含んでいない場合、または、すべての機能を有していない場合があります。なお、これらのプログラムは、すべて個別に販売されているとは限りません。

プログラム名

- 初期導入済みプログラム (Windows 95 を除く)
- CD-ROM セットアップ起動ディスク (Windows 95 CD に付属)

追加条件

家庭用コンピューター/携帯用コンピューターへの複製および使用:この「プログラム」には適用されません。

プログラムの移転: この「プログラム」は、「プログラム」の調達元 (IBM または IBM 認定再販売者) の書面による同意がある場合に限り、第三者に移転することができます。

使用権の証明:これらの「プログラム」に対するお客様の使用権は、所定のライセンス証書により確認されます。IBM または IBM 認定再販売者が提供する将来における「プログラム」の上位移行 (発表された場合) または販売促進用の特別な措置 (提供された場合) 等の資格の確認およびこの「プログラム」に対する使用権の証明として、ライセンス証書を保管するものとします。

このシステムとともに提供された「プログラム」には限定的な技術サポートのみが提供されます。詳細については、システムのマニュアルを参照してください。

プログラム・サービス

この「プログラム」にはプログラム・サービスは提供されません。この「プログラム」は、特定物として現状のまま提供されます。

保証

- 初期導入済みプログラム
- CD-ROM セットアップ起動ディスク

これらの「プログラム」は、特定物として現存するままの状態を提供され、法律上の瑕疵担保責任、商品性の保証および特定目的適合性の保証を含むすべての明示または黙示の保証は適用されません。

その他

この「ライセンス情報」にて参照している書類を含め、この「プログラム」に関するいかなる書類も、お客様の参照のために提供されるもので、「ライセンス情報」記載の内容を拡張または変更するものではありません。

その他の追加条件

以下の条件は、IBM システム (以下「システム」ともいいます。) とともにディスクもしくは CD-ROM の形で提供、「システム」上に初期導入、CD-ROM、システムもしくはローカル・エリア・ネットワーク (LAN) から IBM 所定のプログラムを使用してディスクに複製したデバイス・ドライバー、ユーティリティー・プログラムおよびフラッシュ BIOS コード (以下あわせて「システム・プログラム」といいます。) に適用されます。「システム」とは、IBM 機械本体、機構、形式変更、オプションおよびその組み合わせを意味します。

お客様が「システム」の正当な占有者である場合、または「システム」の保守の目的で「プログラム」を取得された場合、IBM またはその直接もしくは間接の子会社は、お客様に対し、「システム」と共にもしくはその一部として「プログラム」を使用する権利、および「プログラム」を回復または保守のために使用する権利を許諾します。「システム」の正当な占有者に対して「システム」の回復または保守を目的としてのみ「プログラム」の複製物を配布し、導入することができます。ただし、この場合、この使用条件のコン

コンピューターも合わせて提供するものとします。当該占有者が「プログラム」を使用開始したときには、この使用条件に同意したものとします。

「プログラム」の複製物には、お客様は「プログラム」と同一の著作権表示を必ず行うものとします。

この付録は、IBM 製品の可用性、特許、出願中の特許、および商標の情報の法的な特記事項を記載しています。

特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

商標

以下の用語は米国およびその他の国における IBM Corp. の商標です。

Alert on LAN	Netfinity
Global Network	OS/2
HelpCenter	PC 300
IBM	SMART Reaction
IBM Global Network	Wake on LAN

Microsoft, MS-DOS, Windows, および Windows NT は Microsoft Corporation の商標あるいは、登録商標です。

Intel および LANDesk は Intel Corporation の登録商標です。

その他の会社名、製品名およびサービス名は、他社の商標またはサービス・マークです。



Printed in Japan

1999年3月

日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12



SA88-6055-00